

みつわ会北三県会員の集い

平成 24 年 10 月 6 日 (土) 於 <sup>あずまや</sup> 東屋 (盛岡駅前)



(後列) 左から 横尾正勝、千葉繁明、菊池武史、美馬五郎、長谷川昌彦、瀬川邦宏  
(前列) 左から 佐々木敬文、大矢一夫、広田寛子、涌井進、白幡良文、猿川弘治 (12名)

集いへの呼びかけをした結果、「体調の具合で」「他用があつて」などたまたま出席できなかった方々もあつて、写真のとおり 12 名の参加者となりました。

当日は、お店のほうから定刻まで宴会場の準備は出来ないということで、私達は店の前の街頭で待機することになりました。出席者の誰かが店の付近まで来ると、そのたびに お～「〇〇さんだ」「お久しぶり」「ご無沙汰でした」「お変わりなく」と完全に同窓会の雰囲気、のつけから集いは街頭での盛り上がりを見せました。

「普段、疎遠であったものが、互いに顔を合わせた」ということだけでも、この集いは有意義であったようです。

サプライズは盛岡支店の営業職場で長い間、仕事をされていた広田寛子さんの参加があつたことです。盛岡支店同窓会色が強まって一層和やかな宴会となりました。集いは「次回の開催もありかな。」という出席者の雰囲気のなかでお開きとなり、余韻を残して、二次会へと流れていきました。

10 月 10 日幹事会・・・報告

- (1) 10 月 6 日実施「北三県会員の集い」の報告  
集いの模様については支部便り当月号に掲載。
- (2) 11 月 4 日実施「福島県会員の集い」の取組み状況  
9 月 20 日案内状を出状。10 名（うち福島県会員 5 名）の出席が確定。
- (3) 11 月以降、年末・年始までのスケジュールを確定  
11 月 6 日（火）幹事会。17:00～飲み会「酒楽」に席予約済み。  
11 月 22 日（木）定例会（昼食会）しゃぶ禅。  
12 月 11 日（火）幹事会。17:00～「忘年会」会場、会費等は後日。  
1 月 24 日（木）「新年会」・定例会（昼食会）しゃぶ禅。以上日程を決める。

### 11 月の行事

	支部	みちのく損保
11 月 4 日（日）	福島県会員の集い（福島市）	
11 月 6 日（火）	幹事会。17 時～飲み会 酒楽	
11 月 8 日（木）		歩コール会
11 月 10 日（土）		麻雀大会
11 月 15 日～17 日		出雲・歴史探訪の旅
11 月 22 日（木）	定例会 12 時 しゃぶ禅	

※11/6 17 時～飲み会 酒楽一番町(263-0831)会員の方の参加お待ちしております。

※11/22 昼食会の出席は 11 月 16 日(金)までに佐藤賢一さんまで連絡願います。

### 千葉繁明さんの絵



千葉さんが学んでいる絵の教室、「アトリエ光彩舎」が朝日新聞（9 月 7 日付生活欄）に掲載されました。その中の記事として、いかにも千葉さんらしいコメントがありました。（記事全文は次頁に）その時の一連のスケッチ作品がこの「雨の定禅寺通」です。旅先、街角でのスケッチは絵心があれば楽しいものなのでしょうね。

<朝日新聞>

# 55プラス

## 風景を描く①

### 何げない美しさを発見



柴田治さん(左)の描く様子を見つめる千葉繁明さん(中央)。奥では杉山重夫さんが自分のペースで筆を進める。仙台市

8月下旬、仙台市中心部の定禅寺通の遊歩道で、市内で「アトリエ光彩舎」を主宰する柴田治さん(48)と生徒4人がスケッチブックを広げた。街に出て、透明水彩絵の具で風景を描く教室だ。

柴田さんがケヤキ並木や彫刻の像を描いていく手元を、熱心に見つめる千葉繁明さん(74)。風景画を描き始めて20年になる。定年後の過ごし方を模索していたとき、「スケッチブックを手に」どこでも絵が描けた

ら」と思いついた。

今や、スケッチブックは外出のお供。知人の葬儀に参列した際には、早めに着いたのでその家の納屋をスケッチ。知人の娘さんに「お棺に入りたい」と頼まれ、絵とともに見送った。

教室のメンバーでこの春開いたグループ展では、出展した絵が売れた。買ってくれた人の家を、近いうちに訪ねる予定だ。「美しい

風景を美しく描こうとする」と、時間がたつのも忘れず。絵を通じた出会いも楽しいものです。「もの見方が変わってきた」と話すのは、杉山重

夫さん(67)。水を張った田んぼに映る山や、四季で色や表情を変える樹木。以前は気にも留めなかった景色の、美しさに気づいた。

土地を知るにも、風景画はうってつけだ。東京生まれで、転勤族だった杉山さん。「教室であちこちに連れていってもらい、仙台のことがわかるようになってきました」と言う。

風景画を学べる場所は多い。書店にはノウハウを教える本が並び、独学でも始めやすい。教室には、個人が開くものや、カルチャースクールのほか、美術館や芸術系の大学が一般の人間

けに開いているものもある。教室選びのポイントとして、千葉さんも杉山さんも「先生が描く絵が好きかどうか」を挙げる。

プロの講師が同行し、旅を楽しみながら風景画を学ぶスケッチツアーを企画する旅行会社もある。クラブツーリズム(東京都)は、日帰りで近郊を訪ねるものから海外ツアーまで、年間400〜500種類を企画。担当者は「1人参加でも、すぐに友達ができる。世界に一つのオリジナル記録帳を作れるのが、スケッチ旅行のだいご味です」と話す。(中林加南子)

▼あすは「うまく描くコツ」は「Dす

◆ご意見・体験はseikatsu@asahi.com